

## 学術会議のゆくえ

政府が示した日本芸術会議の組織改革方針に対し、鹿代会長ら人が岸田首相に再考を求める声明を公表した。日本記者クラブで会見し、使命を果たすには独立性と自主性が不可欠で、対話や検証もないまま改革を強行せず、社会的・国際での議論が必要だと訴えた。高い学識を持ち、政策立案にも関わってきた立場からの意見は重い。政府は今国会に法案を提出する意向だが、いったん立ち止まり、熟考し議論を重ねるべきだ。

政府や社会の機関で、政府から独立して職務を行い、戰後に設立された以来、専門性を生かし、社会課題の解決や科学技術の活用などに、総合的な提言や知見を提供してきた。

今回の政府案には、会員の選考に關与する第三審査員会の設置が含まれる。しかし、委員会が政權の意をくむ人選を事實上押しつける傾向とながつてしまえば、政府は口ヘトロールされて、多様な視点が失われ、真に有益な助言機能が損なわれる恐れがある。

学問の世界と外部とのつながりを充実化するには、個体性大切だ。学术会議や、企画展など、貴重な機会に名前だけに止まらず、産業界などとのかかわりを深めることも、よりした改革の取り組み。

延長などと云はれ、現在化されない社会問題や制度の弱さ、政財が見逃す問題を解決策を見出さなければならない。

東日本大震災や原発事故、新型コロナでは、研究者も被災抑える役割を十分に果たせなかつたのではないか。一方で、新しい発見につながり、インーションの源泉ともなる。

「問題意識と時間軸を共有する連携強化を求めている」と大変な問題の一つだ。中長期的な視点で考える学術と、国際問題解決や現在の利益を追求するその時の政府や産業界との連携が求められる。西日本から北上して

独立をめる改革は国の損失

保険分野で打ち出す。企業や学  
術界との実践的な連携強化があ  
る。政府の有識者会議は、政府  
と大学、民間が一体で防衛力強  
化をめざす研究開発を進め  
る仕組みづくりを求めている。  
一方、学術会議は、軍事的な  
安全保険研究と学術の健全な發  
展とは緊密な関係にあるといつて認  
識を持つ。学者も戦争に加担し  
て惨禍を招いた歴史的経験を踏  
まえたものだが、これが国防の  
妨げになると主張がある。

### 機能發揮するために

しかし、科学技術を、民生と  
軍事の両面で使われるデコアル  
ユースと、それ以外とに単純に  
区別するよりは難いことになってい  
る。政府の立場からいしても、特  
定の方向に誘導するのではなく科  
学技術そのものを高めていくた  
めうが安全保障にも資する結果  
につながりかね、という観点が  
技術面でどうあるべきか。  
学術会議が知見をまとめ、社  
会に貢献してきた領域は枚挙に  
いとまがない。ただ、その役割  
は広く知られているとはいえない。  
政治や社会への発信や説明  
が足りなかつた面もあり、取り  
組みに努力の余地があるはず  
だ。政府も、学術会議を十分に  
活用してきただとは言えまい。  
積極的に機動的な活動を強化  
すべきだが、それに手を貸す人  
員の裏付けが必要だ。年間10億  
円の予算は、210人の会員と  
約2千人の連携会員の活動を支  
えるのに十分なはずか。会員は  
研究や教育の傍の活動に取り組  
んでいる。学術会議固有も、各  
分野の学会と協力を深めるなど  
工夫をいじらせてほしい。

### 学術会議のあり方は、科学と 社会の関係の根幹にかかわる。

# る改革は国の損失